

地区懇・同好会だより

WSC さいたま

日時：2019年9月25日(水)14：30～17：10

場所：かわぐち市民パートナーズステーション

参加：9名

◆演題1 「発展途上国における国際協力活動の実態」

講師：A氏 NPO法人

コンフロントワールド代表理事
アフリカのウガンダ共和国でトイレの建設や、貯水タンクの建設を行っています。講演を熱心に聞いていただき、質問が飛び交う大変有意義な場でした。私たちのコンフロントワールドは平均20歳代前半で私も25歳です。



コンフロントワールドが活動するウガンダ共和国では、4人に1人しかトイレを使えない、また水汲みに行くため学校に行けないという状況です。この状況下で、現地の人々と共に衛生インフラを整えています。このような場に呼んでいただき、応援をいただいで活動に勇気を持つことができました。

◆演題2 「チョウと60年」

講師：WSC会員A

中・高時代から生物クラブでチョウを研究していました。チョウ研究が趣味で今も野山を巡っています。



自分で捕獲した瑠璃色模様のルリタテハや、ネパールに生息しているテングアゲハ、絶滅危惧種のルーミスジミなどを次々とスクリーンで見せました。

きっかけは、8歳頃のルリタテハとの出会いでした。千葉の実家の畑で見た鮮烈な瑠璃色の翅に、魅了されたのです。15歳頃、生物クラブの顧問の先生に連れられて関東地方の山々に採集旅行に行き、すっかりこの趣味に浸かってしまいました。

出張の際にも、チョウ観察をしました。ネパールのポカラ出張では、地形的要素から非常に珍しいチョウが多く大感激をしました。千葉県育ちの自分との関わりで大事なルーミスジミを紹介しました。この絶滅危惧種のチョウの観察がライフワークになっています。

◆演題3 「大連と父母の思い出」

講師：WSC会員B

私は、昭和9年満州奉天で、女ばかりの4女として生まれました。



父は貿易商、40～50人の従業員がいました。天候が穏やかで治安の良い大連で、父は気に入った家を見つけました。ここは、日本人住宅地で海が近く、この家に13歳の日本引揚げまで過ごしました。

父は天津に工場をつくり、石炭液化事業で飛び回っていました。当時石油が欲しくてたまらない軍と、話が進んでいるようでした。ソ連軍が満洲に参戦したので、8月14日大連に帰ってきました。翌日には、天皇陛下の録音を皆で聞きました。日本が負けると、交通機関も電話も全滅、終戦となると、警察も軍もなくなってしまい今後の見当がつかない状態でした。

その折のある晩、7人もの強盗です。父が猛烈な大声で、どこから入ってきた！電気はない！など中国語でやり取りする間、母は窓から外に出て近所の日本人に助けを求めました。バケツを叩き、コンクリートのごみ箱の鉄の蓋をガンガン鳴らし、ワーワー声を挙げてもらいました。父は近所の日本人が大勢やって来るから、早く逃げろと中国語で怒鳴りました。彼らは慌てて、そばの風呂敷包み1個を持って逃げました。父がいなかったらどんな目に遭ったことか、そして母の機転に救われました。その後もいろいろありましたが、なんとか家族5人全員で引き揚げてきました。

◆懇親会 川口駅前ビル居酒屋「海峡」で催しました。参加者7名、楽しく和気あいあいと過ごしました。

WSC 関西

日 時：2019年10月31日(木)10:30～

場 所：大阪駅前第2ビル生涯学習センター

参 加：7名

◆**講演会** 「インド航路発見の栄誉は誰のものか」

講師：WSC会員（ポルトガルに詳しい）

ポルトガル詩人カモンイスの叙事詩の一節「ここで大地が終わり海始まる」からポルトガル大航海時代が始まりました。15世紀の初めからアフリカを抜けインドへという試みがあり、多くの探検家や冒険家が目指しました。バルトロメウ・ディアスがアフリカ最南端の喜望峰を発見し、インドはこの先だと確信を持ったのは70年後のことでした。

バスコ・ダ・ガマがインドに到達したのは、さらに10年後です。ディアスはその2年後、13隻からなる大船団の1隻の船長としてインドを目指しますが、喜望峰の近くで嵐のためディアスを含む4隻が沈没してしまいました。彼が再び喜望峰を見ることはありませんでした。

◆**懇親会** レストラン「河久」で食事会を開催、和やかなひと時を過ごしました。